

本草圖譜卷之六十五目錄

果部 山菓類

荔枝橋 同 七	穿心橋 同 六	一種 福州ならそが 五	緑橋 同 あそみりん 四	朱橋 上同 あかりん 三	橋 わくこ 一
一種 七	東橋 同 おくしのり 六	早黄橋 同 あせりん 五	包橋 同 わくこ 四	一種 三	黄橋 集あわりん 一
一種 七					二

本草  
圖  
譜  
卷  
之  
六  
十  
五  
目  
録









本草圖譜卷之六十五

果部 山果類

東都 岩崎常正 著  
男 岩崎信正  
門人 小山廣孝 校

橘

かくじ 日本 紀  
たしむか 和名 鈔  
かう 今の  
トグテグ 朝鮮  
シ子トセアツル 荷  
蘭  
金衣 本草和名  
別兼名死







朱橘

集あかり

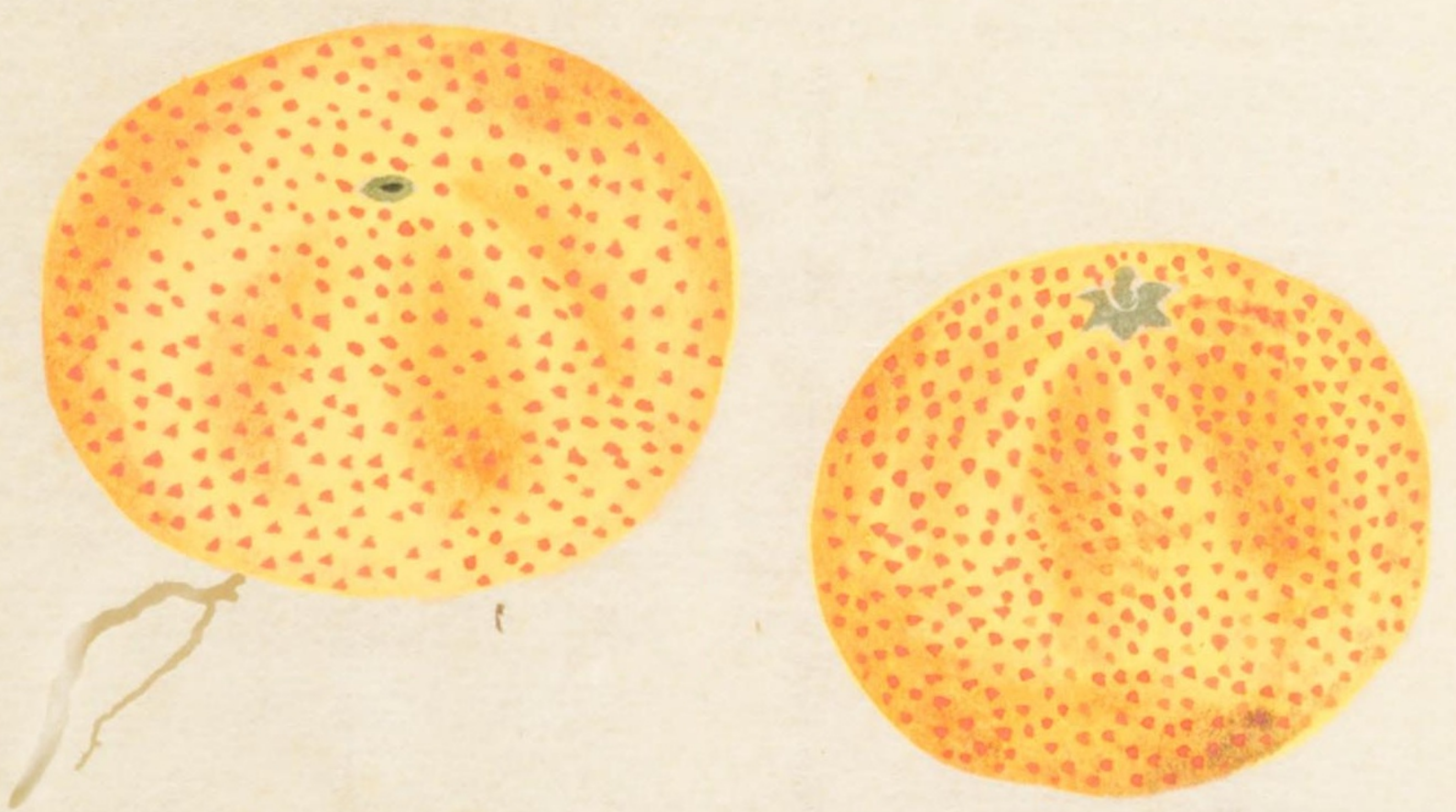
へまわり

深血

江南園史

実の大き柑の如くして皮の色赤く美なり

あかり





緑橘りよく集解

あやみりん

朝鮮より来る  
柑の類は非  
青色のものを  
食す



一種

とろみりん

筑前筑後産  
元漢種もす  
大やう皮の肌細密  
少して橙糸の如く皮  
赤く肉の味ひ甘く  
枝少かる





一種

福州たちをか

實はわさし  
似て皮薄く肌  
細く味は酸く



色橋集

か

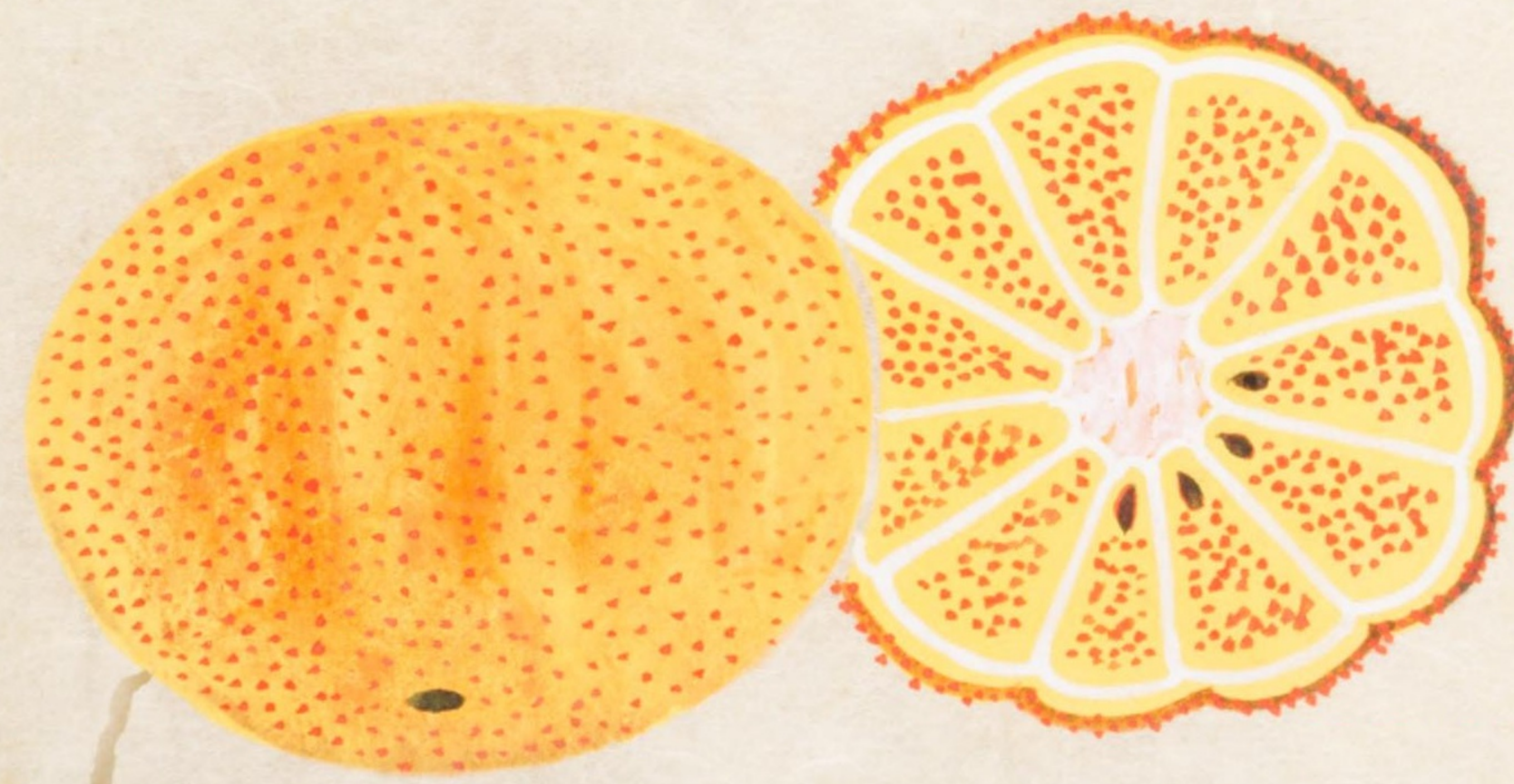
母常のワ  
柑より小く皮  
薄く皮の肌平  
く黄色光り  
て下呂の味は苦





穿心橘せんしんきつ 解集

皮を去り中心を  
一指を入るほどの  
穴のものをあな柑かん  
むもこれなり



早黄橘はやきつ 解集

近山下総の東金  
ふて橘柑の類と  
多く栽も秋より  
早苗の如く  
出物これと尋  
常の如くは似て  
緑色稍大味は  
苦く酸く

早紅橘はやこうきつ 圃史





荔枝橋集

っさみわん

大ききつゝの如く  
固く皮厚く硬く  
黄白色の疣疹の  
形にして荔枝の皮に  
似たり



凍橋集

おくつてのわら

冬月に至りて  
尚実木より  
落さるるもの





一種

盧橘

類書

潜確居

ろろみりん

葉の抽の如く  
肉皮ミりん子  
似る早く出る



柑

瑞金奴

群芳譜

柑子

西陽雜俎

穰

候

事物異名

柑七橋ト同トク暖國の産トテ寒國より養ひトテ花葉共ニ橋ト似  
トテ実の皮厚クテ氣孔粗ク肉の味ハ甘ト其種類多ク古ヨリ然  
柑の總名也





海紅柑解集

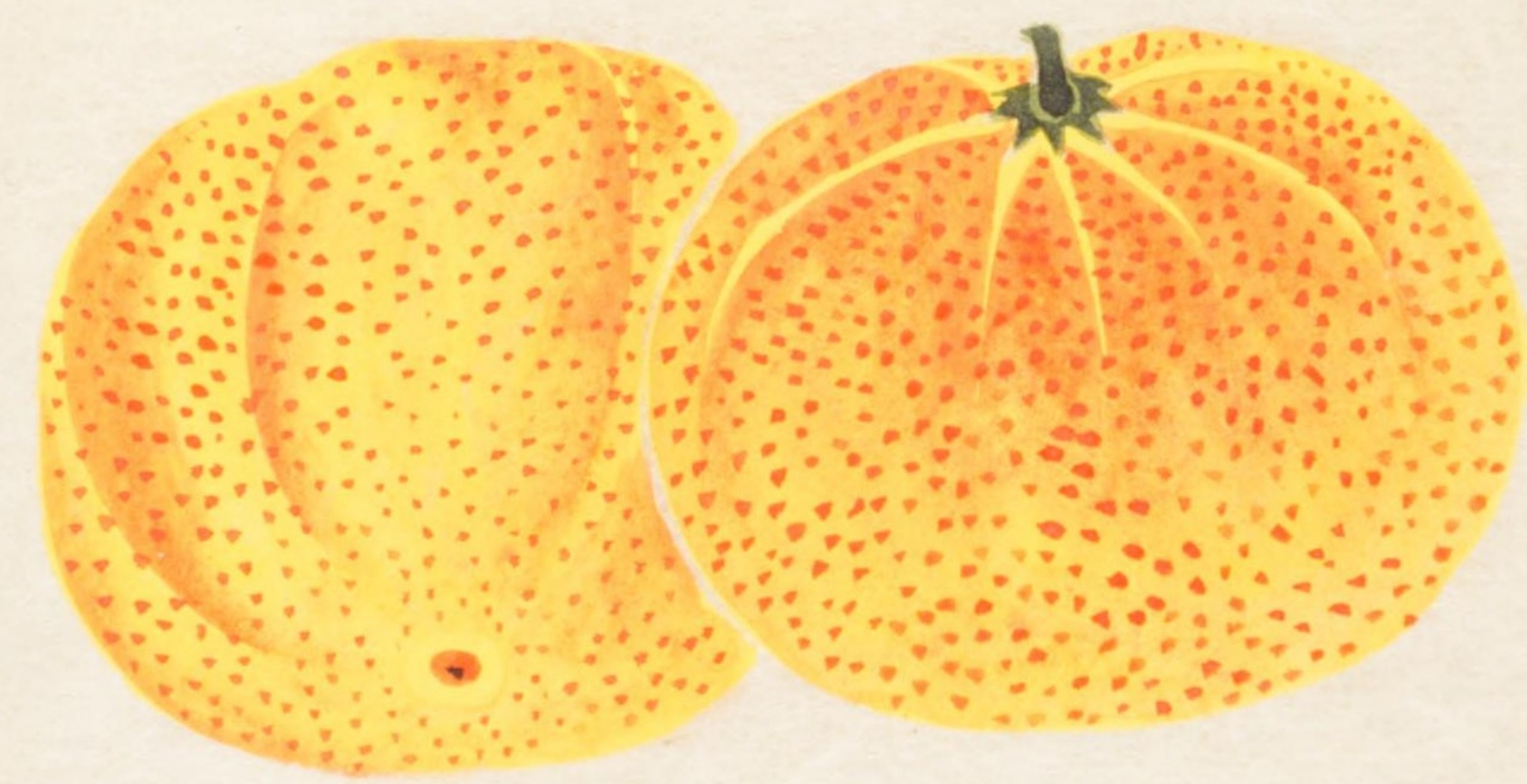
出づるがしんじかん

実大くわんかの如く皮厚く赤色膚細かくて肉の味い甘し



乳柑

田村氏の説は昔年朝鮮人柑子を持來る者なり呼んでウヘとも云形もくわんわく似しく皮の色もくわんわく鮮とミクハ似て少く大なり皮の厚さくわんわく少く薄し其類り乳柑なり





一種 紀伊國之かん

形大なりし皮  
厚く肌一粗  
して柔く肉の  
味は甘美なり



洞庭柑 解集

とんていかん  
くわんてい

昔年此後柳川候  
朝鮮より此種亦持帰り  
栽らるる今世  
多く実の  
形志やが  
似て稍扁く  
膚細くして  
皮薄く肉の  
味は甘く核  
少





獅頭柑集解

雲州云州なりなりををか

駿州駿州小多く小多く裁裁也也形大  
みみりり抽抽のの如如くく稍扁稍扁  
熟熟してして紅黄色紅黄色綠色綠色の  
花花者者るるこことと蝦蟇蝦蟇の  
背背のの如如くく味味いい甘甘くく以  
上三種上三種のの葉葉のの形形大大々  
しくしく椀椀葉葉のの如如くく木  
又小葉又小葉分分枝枝幹幹刺  
りり花花五瓣五瓣白色白色柑柑  
花花よりより大大なりなり



朱柑集解

へへままみみかんかん

皮黄赤色皮黄赤色小  
しくしく酸味酸味多多くく  
下品下品なりなり





一種



菊柑

葉はくわんわんの葉に似て、小く、実の相より小く、黄色の處へ、堅きは緑色の紋あり、こゝ菊花の如し

饅頭柑集

形紀伊國の如く、  
小く皮厚く硬く、  
蒂の着く處別々、  
高く起りて、木瓜の花の如し





一種

かんたけ 長州

長州より形常のくんの如く  
よして帝三重の饅頭柑の如く  
苦ミ少く食むるに又たけ  
と同く冬月黄色春月の  
緑色に變へ年を経るごと  
同



橙

くねんか

振 群芳譜

蜜橙 秘傳 花鏡

樹高大やして葉の抽の  
如く大々本葉小葉を  
枝間刺らう花も小抽  
似て大々雲州たり  
よかよ似て肌密わして  
厚く肉液少く味い甘  
く香氣あり











樹葉はくわんかふ似て刺多く實稍小して柚の如く黄色味は苦く臭気  
 についで食まへし但乾して蚊をりふも故に名は長州より苦味少く酸味  
 多く食まへし物なりとあり

柚

和名

筑前  
雲州

中

大橋  
大倉  
州志

樹高大やうて枝間は刺多く葉兩段あり夏月五瓣の白花を開く實は  
 柑より大し橙より小して黄色肌粗く味は酸





一種

きんち

實の形相似て  
皮細く平  
かき柑の如  
く純黄色酸味  
少



一種

とみゆ

きんちゆ

暹柚 廣東新語

實の形小くして  
硬く春に至りて  
実猶樹より味  
ひ芳





一種

おかし

形状柚に似て  
酸味少く甘  
味らつし果  
わさく



朱薬 名釈 さかん さんか 前 ちやか 佐  
ちやりしんみん 京

此物柚と異なり葉長さ七八寸花五瓣白色柚の如く実甚大うて飽つたの如く  
外皮も又柚の如く黄色皮厚さ一寸許り肉淡黄色ふつて苦く生きて食むべし  
の砂糖と和して食用ひ











一種

らんりゅう

形状前條ト  
同シテ長ク  
一尺ト及ハ





四國九州の暖地より形状前  
似て唯皮の内の瓢淡紅色香氣  
味は稍甘く食ふべし



香藥集  
くくむへか向日  
さんわろ 豫伊  
うらむすき 前花







枸櫞

まろぶーかん

暖地<sup>ぬゑち</sup>の<sup>は</sup>実<sup>み</sup>を<sup>結</sup>む<sup>は</sup>り  
 葉<sup>は</sup>の<sup>厚</sup>み<sup>あ</sup>ら<sup>か</sup>く<sup>大</sup>き<sup>く</sup>の<sup>本</sup>ま  
 小<sup>こ</sup>葉<sup>は</sup>を<sup>花</sup>に<sup>五</sup>弁<sup>の</sup>花<sup>は</sup>に<sup>似</sup>て  
 大<sup>大</sup>き<sup>く</sup>で<sup>淡</sup>紅<sup>い</sup>色<sup>を</sup>帯<sup>ひ</sup>其<sup>實</sup>圓  
 く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>西<sup>西</sup>頭<sup>頭</sup>尖<sup>尖</sup>り<sup>長</sup>さ<sup>三</sup>寸<sup>三</sup>分<sup>分</sup>は<sup>淡</sup>  
 黄<sup>黄</sup>く<sup>く</sup>し<sup>し</sup>厚<sup>厚</sup>く<sup>新</sup>疔<sup>疔</sup>瘡<sup>瘡</sup>に<sup>肉</sup>白  
 色<sup>色</sup>味<sup>味</sup>は<sup>不</sup>可<sup>可</sup>多<sup>多</sup>す<sup>多</sup>す<sup>多</sup>す<sup>多</sup>す<sup>多</sup>  
 煎<sup>煎</sup>く<sup>食</sup>用<sup>用</sup>し<sup>又</sup>藥<sup>藥</sup>用<sup>用</sup>す<sup>す</sup>







佛子柑 名飛 てがけり  
 飛穰 通  
 佛爪香圓 八咫通志  
 樹葉前條と同唯此物嫩  
 葉紫色を帯るを以て別  
 唯其實蒂は枸櫞の如く  
 中央未分れて千瓣許り  
 曲りて人の手似たり肉白色  
 おて核あり





金豆解集

まめきんかん

樹葉前條と同唯  
実大豆の大き秋月熟  
し黄色春ふ至りて  
紅黄色尚樹者より  
肉少く食ふま堪ひ



金橘

むめたちりとか

きんかん

瑞金奴秘傳

樹葉柑ふ似葉稍小刺あり  
花五瓣白色小く実の太枇杷  
の如く熟して黄色且少く食  
砂糖ふ漬て食用ひ





本草図譜卷之六十六目錄

果部 山果類

枇杷	一種	一種	一種	一種	一種
楊梅	三種	一種	一種	一種	一種
櫻桃	五	山嬰桃	七		
一種	八	銀杏	九		
胡桃	土	山胡桃			
一種	十二	一種			



一種 かみきんかん 金棗  
 牛孺金柑 樹葉前條と同  
 実長ふく葉の如く  
 百部

